樽見内村

里長　源藏

樽見内と蝦夷語の轉語なるべくして蝦夷ハ澤なる事を蝦夷人が詞に云ひ澤多ハ真砂に留る道路をいふ事なるそのあるを正しく云ひオタルミンナ井といひてこれを考ハ澤多の澤と有多留美年を京五年とあるを云ふなるべし

八幡宮　此村の南に在り　祭日三月十五日　別當修驗大聖院

神明宮　社地前に同じ　祭日八月十六日　別當　同院

道祖神　小字田ノ口地に在り　祭日四月八日　別當　同院

薬師如来ノ社　平ラ清れる処に在り　祭日四月十八日　別當　同

薬師如来ノ社　水里境なる今ハ東條村といふ所に在り　祭日四月八日　別當　同

摩利支天ノ社加良内ト云ふ処ノ在り祭日四月廿四日別當大聖院
深山権現ノ社古館ト云ふ所ノ在り祭日六月十五日別當同院
白山姫ノ社大槻ト云ふ処ノ在り祭日九月九日別當同院
水神ノ社樽見内の西ノ方ノ在り祭日四月八日別當同院
郡邑記ふ樽見内罫捨ト軒中ノ在家十一軒 水呈焼村一軒（今ハ本郷村ノ属村ノ内）
柄内立軒 荒屋四軒 小呈田立軒 平清水八軒 古館四軒（本ト館跡ノ）
今ハ田ト成ル 今ハ本郷罫捨戸 中ノ在家四戸 薬師村（古名水呈）
境村ノ二戸 高畑立戸 小呈田四戸 平清水四戸 みちのふ平
泉ノ内ノ例ノ如ク古館四戸 加良内古ト 柄内ト記ス
こゝ古ト柄内ト云ふ所ノ近き ふ柄内の内ノ内ノ内ノ
所ノ多ク下加良内ト云ふ処ト云ふ所ノ加良奈章ト云ふ

一樽見時村一

搬吏渋ノ古ト加留那章ノ加留ト某ノ所ノ多ク加流
ト云ふ調度の形立ノ家造ノ所ノ京為ノ前ノ如ク
こゝ深ノ事ノ吏の島章ノ加流奈章ト云ふ細ノ
沢ノ津軽ノ唐内恢ノ加ノ所ノ板ノ住人の附ノ云ふ言
ノ下中ノ在家ノ中ノ侍ノ人ノ はらいノ某在家某在家
ト云ふ村仙堂ノ云ふ多ノ此中ノ在家大樋の本ノ其西ノ方ノ

中ノ在家村の樅樹の古木

樅見図 村名枝郷 中ノ在家村あり人家中の傍にいて此中崎の立兵衛といふ家の前栽に大木の樅一本あり此木の根に中ふいに処にて四方面の圍碁盤八面制作にしてある番匠のその樅で計り見てあるいてふ樅の大木を魚野山まで使渡嶋にあるといて

侍谷抄に柏兼谷苑云ノ一谷に樅白菊ノ二音和名加閑と見る 和訓栞にかへ日本紀に柏とよめり香宣の義なり 和名鈔曰し今かへと名る物なし松柏とかべ移るとよんバ今世側柏扁柏圓柏混柏仙柏の類をいふ

侍谷抄に樅子とあり歟 今かやといふ

轉語二数中の類に同じ柏実を見えず日本紀延喜式にて柏をかしはとよめバ柏く数種ありと知べし

陸奥国磐井郡金成ノ里の清浄院に金賣橋源頼朝の樅の木

修験大聖院

樽見内村大聖院家ハ數代社家ニて佐藤と称ていしく人の長男出家ニて修験と為り大聖院宿不と云ふ是宿不と祖として代々大聖院と号ス開山大聖院宿不寛文三年四月十七日化

二世大聖院宿永延享四年巳十二月廿六日化　三世宿相享保八年卯八月廿日化　四世宿峯寛保二年戌四月廿五日化　五世宿性安永五年五月七日化　六世臨柳閑居ス　七世現住大聖院宿辯之

勸宣院修験

上祖ハ小野寺信濃と云ふ浪人ノ子太郎と左門とて土佐ノ國小住ノ其次郎ノ人修験と為り流如坊と云ふ法流本坊と

上祖なり　流布坊秋傳永禄九年丙寅七月廿七日化　三世修
德院宥尚　享保五年庚子二月十六日化　四世因了坊宥快安
永五年丙申六月廿九日化　五世勸宣院宥仙　享和元年辛
酉五月十日化　六世修德院宥了　文政五年壬午二月十三日
化　七世勸宣院教傳　現住之

常覚院

當院開祖は樽見内城の家中山田源太某なるの子山伏
なり阿含坊なりて大峯に入りてをのれ方てたふとして首
途の日六月七日て入寂なりそのあとの坊舎なるをそ
未今住居なるなり　上祖阿含坊　二世正順坊實永栄元
年十二年乙卯六月八日化　三世常覚坊宥全　寛保三年癸亥十
月廿日化　四世常覚院宥元　安永八年己亥八月晋化　五世
法順坊　圓相天明二年壬寅六月十八日化　六世常覚院
宥會閑居存命　七世現住常覚院快芳之

砂子田村　　里長　三四郎

砂子田（スナゴダ）　砂子澤（スナゴサハ）に在る名之郡色沈、家負拾八軒
中村四軒　慶安八年、始　下谷地村慶安元年家負拾軒
治兵衛村　兼應三年、始家負五軒ト云ヒ　今ハ　砂子田
村九戸　中村三戸　下谷地　十一戸ヲ　治兵衛村類（ルイ）多シ
其兼應のころ村　治兵衛が後　市之助ト云ヒ有リ

八幡宮社地　東西十五間　南北十二間　本示日八日十五日別當指見内村大聖院
神明宮社地　東西廿五間　南北廿五間　本示日四月十日別當　同院
末社（エダ）　芦（カシ）神ノ社　稲荷ノ社

村中家負四拾三戸　人數百九拾五人　馬數三十五疋

上鍋倉村

里長　喜左衛門

鍋倉ハ本ト山ノ色黒キヨリテ名ヲ付ケタルヨシ出羽陸奥ヨリ多ク山ノ名渓ノ名ヲ村ノ名ニ付ケタル事ハ南部倉ノ名ヲ書シ事ハ小野寺興廃記ニ原田大膳岩崎城乗取事ヲ云フ又岩崎ヲ肝要ノ虎口ニ加勢ヲ遣ハサレタル旗本人数不足ニ付ハ減ニ付事ハ叶ヒ難シテ一族ノ吉田樋口服若等ヲ遣ハ折節河内守殿岩崎伊豆ヲ旗本ニ残ケルヲ宇津野文助栗田市丞等ヲ遣ハシケル又河熊桂田南部倉新田同今泉立岡城ヲ攻ラレ給前ノ間加勢給仮ヲ差ケル戦道ヲ塞ガ立ヶ所ノ加勢ヲ稲庭ニ梨子川逆馬倉増田八木岩井川猪岡横田境ニ加勢ヲ嘱渡シ加勢

を配れけりとまゝ植田南部舍今泉河無ハ三百人ゝて水瀬
川の岸ふ副ゝ岩崎を攻ゝと喋合を云ゝと見ふり鍋倉の城ハ
下も鍋倉村ゝ在ゝ郡邑記ふ上鍋倉家負廿九軒 勘六村
田拾軒 富澤村田不三軒ゝ云ゝ今ハ 飛澤村 古名 高沢 家廿
一戸 勘六村八戸 中村拾一戸 宿屋敷五戸 法龍堂村廿
戸ありゝ云ゝ

法龍山大権現 祭日四月三日 ゝふる大樹三本 ミキ 廿七ひゝてゝ
ゝゝ座ゝ 法龍ゝ寶龍 保量 方龍寶領寶量寶寮
法梁記ゝ恣 オガミ 書 カキ ゝて ゝこゝ 氏 ゝる神ゝ別當下湯倉村ゝ勸行院ゝ

神明宮 祭日六月十五日 別當 同院ゝ

春日大明神ゝ社 祭日 同前 別當 同院ゝ

正一位稲荷大明神宮 祭日八月九日 齋主 五郎兵衛

稲荷社 齋主 作左ヱ門

田地 イナダノナ 字

ゝゝから 大せき 流ひ 圃見 中千苅り

惣家負六拾五軒 人数三百九人 馬負三十三疋

下鍋倉村　里長　甚四郎

いにしへ鍋倉相模守此城主なり永慶軍記廿八巻小野寺一門取て城返り攻事としるくぶるまに西馬内松岡泉堀柳田の者ども一處ふ打寄り内談て宛の去年最上へ取られる諸倉桂田新田目河熊が許へ旅婦て送り此四ツ城を取返んと云右四人の者親て詰れ成る子とうたき一族二郎等とられ面目なくいとも時節を窺ひ横手の旗なと成てあるけるが此到来を悦び雪に一族朋友て人数をかて従て出陣を是をせて高寺宿鎧御家筆三子隊人馳来る其外在と一所をなる馳着七八千人四手に別て先ッ河熊へ山田氏部少輔同次郎泉堀左馬亮柳田治兵衛尉河熊典九郎千五百人かて押とかけるる鍋倉城へ西馬内武部

お輔田孫六松国おや前守鍋倉相模守二十家人うち四ふ[illegible]
郡色地小下鍋倉村家数八拾三軒城形ありと居屋敷と成
堀添と堰苗代と成る河前村家拾軒有と処元禄年中潰れと
成る 羽場村家七軒ありと[illegible] 本戸といふ処村の西北に在りむ
うしの柵戸の添之 鎧といふ村ありしが今いかし 先小城形ありし処之
都町といふ村享保のまで立六軒ありしが今八名のみ有るのみ
城ありしころ町作りし都なりしと考ら反 栖家ありしと云ひ
やしまと美夜子といふ容端正なれとも在しなば人家なの
ありと愛あまりたる宮子町と云ひしといふ 河前といふ所ある
ありむしまで家ありまる源兵坊といひし山伏の住刹ありが
此村類しる 羽場ありと沖羽場ありといふ処ある家

正観世音菩薩安置阿弥陀作黒松山久満寺といふ仙世廿九番
順拝札所之堂二間四面向南奈日七月十八日別当勧行院
如意輪観世音地福山清應寺といふ正観音八新処といふ地
此如意輪菩薩八沖の羽場といふ処に麓ありつ八田望成
就のためみ天和元酉年建立ち願主異成ありれ人並て
異成勧音と唱ふ之堂舎一間四南向西奈日四月廿三日別当
神明宮廣塚といふ処まさ向西奈日四月十六日別当前
永藏寺
普門山永福寺ノ開祖八食室大悦和尚時代ありて某
年某月ノ二日迄化 二世茂庵秀繁和尚某年某月十二日化
三世虎山玄龍和尚某年某月廿三日化 四世融山應祝和

尚某年某月二日化　五世天空鳳龍和尚寶永六年己丑三
月廿六日化　六世長殘鶴宗和尚享保十六年辛亥二月廿六日
化　七世紹印寂立和尚享保年不知十二月廿八日化　八世別叅心宗
和尚延享元年甲子四月十六日化　九世勸山宣圓和尚寶暦
十年庚辰正月九八日化　十世藏三祖戒和尚安永四年乙未
二月二日化　十一世圓全祖超和尚寛政七年乙卯大澤
村松雲寺移轉　十二世月峯鍼輪和尚天明四年甲辰五
月廿一日化　十三世隣岩固宥和尚文化七年庚午十月朔日化
十四世○○山和尚文化十年癸酉大倉村常在寺へ移轉　十五世
禪定和尚文政七年甲申三月上帖川村長福寺へ移轉　十六世
現住心宗和尚之此永藏寺ハ增田ノ滿福寺の末寺之

修驗勸行院累世

覚當山勸行院八天正年中の創めといふ開祖南ノ坊吉山
慶長十九年甲寅二月晦日迁化　二世圓全坊祐光寛永十四
年丁丑八月三日化　三世南ノ坊負山寛永二年壬寅三月八日化
四世勸行院宥傳元禄元年戊辰五月十六日化　五世勸
行院宥清寶永七年庚寅七月廿日化　六世勸行院宥勝寛
延元年戊辰三月十七日化　七世喜福院宥壽天明二年壬寅
六月廿三日化　八世理源院宥薫寛政三年庚戌三月四日化
九世勸行院宥康寛政七年乙卯四月廿六日化　十世現住
勸行院宥亀之

古跡田地字（タドコロヲナ）

犬子清れ荒廻とゝふ家の勧行院の境内なり此末〻を勧音
田とゝふまた六〻段とゝふなかゝ清水町村の水上ことの清れ町の
條〻なり一万治寛文のころ下鍋倉村の久左衛門とゝふもの
患道完癒さるとゝいつまの開発のときや稲荷の神
小祠をことて源いづこゝろあんこゝをあらせしこゝを山田の
ひゝふいなゝまをせば初雪の夜ふ狐のあきらに鳴なれぬ
あやまき事とおりひて旦此狐のふゝ〻を海てあるべに
どゝ〻〻なりけど犬子清れそ狗子の音して鳴ゝ
湧出る寒泉あり〻こゝを稲荷のあるむつげかんとやゞて堰
埭を作て水田をひきゝるこゝまゝある人の云ふまを抑
ていあこゝゝゝゝゝゝゝ狗の子と呼ぶこゝにいすつき出てゝゝ

今〻清れいゝ〻さまかゝいゝを
託宣塚ゆゑすあるゝ処ゝいゝでさぶゝをそれとあるまゝ人
かゝ

麻畑原　中千川　菖蒲沼　両沼　大澤見

往家負六拾一戸　田人数二百九拾四人　馬負廿一疋之

十五野新田村　里長　治右衛門

十五野ハいなかのゝの名あり近きゝ十六石といふ字あり
にゝ[illegible]ていつるうむるハ十五野目と云ひ一説之秋田の郡ゝ
八五十野同りゝとこゝ今野の字と者ゝて五十目と云ひこゝ
目の字をぶりて十五野といひまゝ十五野新田と郡邑記
小　十五野目村家負四拾軒寛文丑新古内村ゝ分ル三ッ屋村
寛文元丑年ゝ開元禄年中ゝ潰ル四ッ屋村家六軒同年專助
と云者居始ル　ゝ村同四軒延寶五年巳年ゝ始ゝ三ッ屋
四ッ屋ゝ村今ゝ廢ゝ
八幡宮神社二間ゝ三間社地東西廿間南北四拾七間之
祭日八月十五日　別當下鍋倉村修験　勸行院

正一位稲荷大明神　野口村に座す社四尺四面向南社地十八間
南八吉畑限り東西拾七間東北ハ堀切り杉群の杜にそびゆ祖
父杉祖母杉として大杉二本生しあるそう此杉あるをもて人こゝ
大杉の明神とまをす　祭日八月十六日　別當前きまおなじ
藥師佛の社八幡宮の杜の内に齋まる治吉屋といふ家の
内神　祭日四月八日　別當前きまあるがごとし
喜藏明神此稲荷野中村に座す　神社なし
傳四郎といふ家の内神　別當前きまあるし
俵木明神野中に在る狐を齋ま治吉屋といふ家の
凡家負四拾三軒　内下ノ南村家六軒　人負百八拾七人　馬數十七疋

住吉荒田の目村　里長　團助

住吉新田野口村いにしへ中須賀し野の字有けり本ハ荒
田野口住吉両村にしがたて以て一村の名とせり荒田目ル本荒
田目ハ今ハ田川郡に新田口郷あり氏子はまた右村と一村呼
ぶハ寺中城の内まゝ八田大蔵なとのあるしの家
愛宕社　新田目住吉村に座す　祭日六月廿日別當今泉村修験法金院
神明社　住吉村に座す　祭日四月十六日別當　日前
住吉社　野口村に座す　祭日四月三日　別當　さるゝ四じ
むかし難産の無村にハ此住吉の御神の守護なしハ難産
婦の苦めなき事なりとて云い伝へあるゆえ神社考詳節に云り
住吉社四座第一天照大神第二宇佐の明神第三産筒表筒

中筒ヲ為一座第四神功皇后ニ日本記ニ仲哀諸尊至テ日向ノ小戸ノ橋ノ之檍ノ原ニ被除時座筒男中筒男表筒男自海ノ底化生是即住吉ノ大神之坎神託ノ神功皇后ニ今之征三韓ヲ構洋筑前長門各有鎮座皆是ニ住吉ト又ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

古拾二軒
今拾一戸 寛永十八辛巳年松島文藏申者始テ居申候ト云ヘ共

郡岡村家負廿一戸 此村郡邑ニ云ヘ共此典化村ノ西ハ柳原迄ハ

郡處郡岡ヲ坤ハ雄勝ノ郡ノ水芋瀬川ニ巽化村ノ創

茅ハ小松典化ニテ其後亂小松東馬ニテ郡岡村ニ在リ

八幡宮 祭日八月十五日 別當 新関村ノ喜福院ニ

田字

中郡 八万郡 中田郡同 所々

物家數五十九戸 人員三百拾八人 馬數三拾四疋

中吉田村 里長 長左衛門

吉田小上中下所ノ上吉田ヲ醍醐村ト本郷ニシ中下西村ヲ此

御寄ノ郷ニ中吉田ニ市兵衛ノ栄藤ノ枯れて大きなる根ノ

殘りて地ニ藤根邑ト名ク郡邑記ニ中吉田村ト名ク

唱ふ藤根村家負四拾三軒附札沙村ト中吉田ト唱ふ柳餅村

家負六軒 西小路同十八軒 福田村同廿四軒 中村同拾一軒 下

藤根村同拾四軒ト云ヘ共

辨財天女社 四尺間三間四面 萱葺 向南ニ 社地 東西廿三間 南北七十四間 藤根村社

東ニ清水川ヲ此水上ニ磨清水勸音清水ト云ふ寒

泉アリ 髓板 焼板ニテ二本ノ各木ヲ焼板千枝

地ニ成テ清水川ヲきしヨリ出ル髓板ハさし入る新居の外ヨリ立

てゝ如は少杉まで〻る本〻源紀社〻病ひるものゝ此社ふ夜〻乱りるる
人多〻まゝ林の夢大ゝ法師来ておこり火かと面ふらゝ〻ると
見〻〻ゝ汗ゝて其病ひ除ぐいゆ〻いてその法師を大杉坊と云ふ
二本の杉の神霊ゝやゝ〻ゝ〻と〻いて祭日六月十日（別當修験藤椎村吉祥寺）
袈裟子稲荷明神ノ社（萱葺）祭日八月十日別當同寺
如ゝ〻清水川の辯財天の社の西〻座〻
根〻子稲荷明神社竹原ゝて村〻二十丈南北方ゝ座〻
西向き萱葺の社祭日八月三十日別當吉祥寺俗ゝ此社ふ
雄勝郡杉〻宮の安貝阿子ゝといふ牝狐の来ていつも安産れハ
乃ゝ文ゝ合願ゝ〻ゝ〻いて小兒を抱ゝといひ抱ゝ〻ゝ〻
ゝて此名ゝけゝ如ゝ如ゝ〻〻

夜光明神社五味川境ふ座り夜〻〻あ中〻れ光ゝ如ゝれハ
此稲荷ゝ〻ゝ〻ゝ〻

修験吉祥寺

藤應山吉祥寺ハ古名ハ天正寺と云しまゝ寛永のころハ藤王山密藏院といひ〳〵佛舍之天明のゝち〳〵今の吉祥寺とゝなる〳〵上祖ハ吉田城主小野寺孫市郎陳道の末男源治郎某と云ふ武士出家して天正文禄のころ書常真言流と名乗り其後削髮ありて倉地住〳〵ばさぐり小ハ云ひぐさ〳〵まゝ羽黒山と爭論のころ横津守某と云ふ社人と同居せ事なども有ハ〳〵とゝなるさるゝ田畑もあらざるゝとい〳〵さりけれと小野寺源治郎某の僧名勸山と云ふ此勸山と鼻祖とせゝ勸山誕生遷化ノ年月伝ふ〳〵

二世天龍院淑山慶長八年癸卯二月十三日迁化年九十二之

三世密藏院負山寛永二年乙丑正月廿二日迁化八十歳

四世山宗龍寛文四年甲辰九月十日化九十歳　五世龍山正德三年癸巳三月朔日化七十二歳　六世俊山寶永七年庚寅正月十三日化九十八歳　七世快元元文三年戊午三月七日化七十五歳　八世俊英延享三年丙寅七月十三日化四十九歳

九世知龍寶暦四年甲戌十一月十四日化三十四歳　十世快龍安永三年甲午十二月十五日化七十五歳　十一世龍弼寛政三年辛亥正月十五日化六十二歳　十二世宗龍現住寿八十歳汁之

中吉田藤根村辨財天
甲
鶏栖ノ前の祖又枚古木へ
乙
丙
ゆ〻〻〻ハ 姥楢 賤枚の
字と用ル
乙
甲

甲
雑財天社 寒泉
千歳のうち坂
甲
丙
乙

○いかゝの常藤振うて
佩帯（オモ）作りて裡面（甲乙）ふ。
藤王山 寄藏院
寛永某とあらう

下吉田村

里長　宇太郎

享保日記ニ家負五拾四軒　下福田村同廿二軒　高口村
同七軒　四ツ屋村同六軒　くるゝ　今本郷九戸　下福田村
十二戸　高口村廿一戸　畑中三戸　狐塚五戸

大日如来ノ社　祭日三月十五日　齋主　多兵衛

下吉田街道のかたらに座り

神明宮　下村ゝ座り　祭日七月二十二日　齋主　里長（キモイリ）之

八幡宮　高口村ゝ座り　祭日八月十五日　齋主　三郎兵衛

総家負五拾戸　人員三百拾人　馬数卅九疋

田字（ノナ）　大道（オホミチ）

祝村

大下吉田一

東石塚村　里長（中吉田村兼帯）彦左エ門

郡邑記ニ云　東石塚村家負十三軒　帝里印石塚村ト

西在ニ石塚村有ル故　東石塚村ト可唱之　西在ハ石塚新田ト可

唱ヲ

藏王權現社　祭日三月廿七日八月廿七日　別當中吉田村吉祥寺

弥陀佛ノ社　祭日三月十五日　別當　同上ノ前

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]